

トピックス

FTTH 端末製造ラインの構築

当社は、ブロードバンド・ネットワークの中心である FTTH^{注1)} 端末「メディアコンバータ」の量産ラインを、当社の製造子会社である(株)富士通アクセスプロダクツ小山事業所に構築しました。

これにより、月産 50 000 台の製造体制を実現しました。



組立～梱包一貫ライン全景



FTTH 端末外観

INTELEC 2003 論文発表

第25回国際電子通信エネルギー会議INTELEC 2003 (International Telecommunication Energy Conference) が社団法人電子情報通信学会通信ソサイエティおよびIEEE Power Electronics Societyの主催のもと、2003年10月19日～10月23日までの期間、横浜市のパシフィコ横浜にて開催されました。

本国際学会は、電子通信エネルギー分野での国際会議で、1983年と1991年に国内で開催されています。今回は12年ぶり、3回目の日本開催となりました。10月20日から4日間、テクニカルセッションが開催され、44のセッションで126件の論文発表がありました。

初日は二つのプレナリーセッションのあと、基調講演として株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモの立川社長殿より、「The Future of Mobile Communications」と題して講演がありました。その後、テクニカルセッションが開催され、発表は、給電システム、モニタリング、発電／エネルギー蓄積技術、蓄電池、整流装置、交流電源装置、DC-DCコンバータ、パワー半導体、環境関連技術、通信空調、接地関連技術、EMCと雷防護など、さまざまな内容でした。

本セッションと同時に展示会が行われ、海外20社、国内15社、合計35社が出展し、当社も出展しました。

会議には、世界29か国から853名が参加し、成功裡に終了しました。

当社はテクニカルセッションで、10月21日のSESSION 9 : Synchronous Rectification in DC-DC converters 1にて「可飽和カレントトランスを用いた同期整流方式の特性 (Characteristic of the Novel Synchronous Rectification Method with a Saturable Current Transformer)」と題して、DC-DCコンバータの整流回路に可飽和カレントトランスを用いた同期整流回路方式を提案しました (INTELEC 2003 論文集 参照)。

本論文では、可飽和カレントトランスを用いた新しい同期整流回路方式を提案するとともに、回路動作の解析を行って、有効性を検証し、広く適用可能なことを証明しました。発表は、パワトロシステム事業部第一パワトロシステム部の芳野徹氏が行い、ユニークな方式として注目されました。

注1) Fiber To The Home